

平成 23 年度地球総合工学専攻
国際研究交流活動
報告書

平成 23 年 12 月 26 日

はじめに

大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻では、平成22年度より、専攻内での国際的教育環境の醸成を目的として、教員や院生が企画する海外との教育研究機関との研究交流に対して、校費から支援（総額50万円）を行うことになりました。

今年度は制度開始より2年目となり、4件の国際研究交流活動を支援することになりました。それぞれの研究交流活動の成果を発表し、本制度について広く周知を計ると共に、教員、学生への研究交流の参考にしていただくため、平成23年12月26日に本学にて報告会を開催いたしました。

本資料は、そのときの配付資料と後日提出された資料を取りまとめたものです。皆様の国際研究交流の参考になれば幸いです。

平成23年度 専攻企画WG主査 山中俊夫

平成23年度 専攻企画WG委員

山中教授（主査），戸田教授，鎌田教授，小野准教授，桑原准教授，千賀助教

平成23年度 地球総合工学専攻 国際研究交流活動報告会プログラム

- ・ 日時：2011年12月26日（月） 13:00～13:45
- ・ 会場：U3-211教室

- ・ 船舶海洋工学部門

13:05～13:15

- 1) デルフト工科大学船舶海洋工学科との学生研究交流（発表者：中野武重(M2)）
 - ・ 日程：7月18日～7月19日
 - ・ 場所：デルフト工科大学（オランダ）

- ・ 社会基盤工学部門

13:15～13:25

- 1) 第10回地盤に関する日韓合同セミナー（発表者：平山淳基(M2)）
 - ・ 日程：11月4日～11月6日
 - ・ 場所：韓国海洋大学校（韓国）

- ・ 建築工学部門

13:25～13:35

- 1) 建築系学生における大阪大学―サハヌディン大学の2011年国際交流
（発表者：向阪真理子(M2)、山本葵(B4)）
 - ・ 日程：9月16日～9月23日
 - ・ 場所：サハヌディン他（インドネシア）

13:35～13:45

- 2) 大阪大学・香港理工大学・ソウル市立大学による研究交流会（第6回アジア建築技術・構造工学協定に基づく国際ワークショップ（ACBC2011））
（発表者：澤田昌江(M1)、本多順子(M1)）
 - ・ 日程：7月31日～8月4日
 - ・ 場所：香港理工大学（香港）

デルフト工科大学 (TU Delft) との学生交流会報告書

1. 日時・会場

2011 年 7 月 18 日 (月曜日、祭日) 午後から学生幹事による観光案内

2011 年 7 月 19 日 (火曜日) 9:30～20:00 大阪大学吹田キャンパス

2. 実施内容

- 研究交流会
デルフト工科大学の助教授 2 名による講演（デルフト工科大学船舶海洋工学科及び教員の研究紹介）や、デルフト工科大学・大阪大学の両学生による研究発表・質問を行うことによって、両大学での研究の相互理解を深めた。
- 昼食による交流会
荒田記念館にて、昼食を一緒にしながら、学生生活や研究・教育・文化の違いなどについて、いくつかのグループごとに会話をしながら交流を深めた。
- 施設案内
大阪大学吹田キャンパスにある実験施設等の案内を行った。具体的には、長水槽・アメーバ水槽を見学し、イカロボットを実演した。
- スポーツ交流会
台風接近で天気は最悪であったが、デルフト工科大学の学生から是非ともサッカーの試合がしたいとの強い希望があり、雨中で両大学の学生がサッカーの試合を行って交流を深めた。
- 懇親会
屋外でのバーベキューを予定していたが、台風接近のために、場所を荒田記念館に変更して、日本食紹介も兼ねて一緒に食事をし、会話を通じて交流を深めた。

3. 成果

- 他国で行われている船舶海洋に関する研究への理解を深めることによって、幅広い視点を持つことができ、学生たちの研究に対するモチベーションが更に向上した。
- 英語でメールのやり取りをしながら、デルフト工科大学の学生と共に学生交流会の段取りを決定していくことによって、国際的なコミュニケーション力を身に付けることができた。
- 両校の学生にとって実りある交流会にする為に、交流プログラムを考えたり、多くの学生の参加を促すことにより、企画力が向上した。
- 当日も研究交流会、懇親会における挨拶や進行等、できる限り先生方の力を借りずに英語で進めていこうとしたため、非常にいい経験ができたと同時に、英語への学習意欲も飛躍的に向上した。
- 特に懇親会には多くの大阪大学学生が参加し、大変盛り上がった。（写真参照）



TU Delft スタッフと大阪大学の学生幹事 5 人



TU Delft と大阪大学の学生たち

日本側参加者

氏名	研究機関及び職名	備 考
中野 武重 若林 友輝 中川 大輔 関 宏輔 小森 愛美	大阪大学地球総合工学専攻大学院生 M2 大阪大学地球総合工学専攻大学院生 M2 大阪大学地球総合工学専攻大学院生 M1 大阪大学地球総合工学専攻大学院生 M2 大阪大学地球総合工学専攻大学院生 M2 その他大学院生約 25 名参加	幹事代表 幹事 幹事 幹事 幹事
柏木 正	大阪大学地球総合工学専攻教授 その他，研究交流会，懇親会には 複数の教員も参加	相談役

相手側参加者

氏名	研究機関及び職名	備 考
Roel Zwart	デルフト工科大学船舶海洋工学科学生 その他学生 33 名	学生代表
J. Pruyn P. de Jong	デルフト工科大学船舶海洋工学科助教授 デルフト工科大学船舶海洋工学科助教授	引率教員 引率教員

デルフト工科大学(TU Delft) との学生交流会

地球総合工学専攻
船舶海洋工学コース
博士前期課程 2年
中野 武重

・目的

・研究交流会

TU Delftの助教授2名による講演
TU Delft・大阪大学の学生による研究発表
両大学での研究の相互理解を深める

・国際的コミュニケーション

英語でメールのやり取りをし、
国際的なコミュニケーション能力を身に着ける

・企画力向上

交流プログラムを学生自身が考えることで、
企画力の向上を図る

・参加者(日本側)

氏名	研究機関及び職名	備考
中野 武重	大学院生 M2	幹事代表
若林 友輝	大学院生 M2	幹事
関 宏輔	大学院生 M2	幹事
古森 愛美	大学院生 M2	幹事
中川 大輔	大学院生 M1	幹事
	その他大学院生約25名参加	
柏木 正	大阪大学地球総合工学専攻教授	相談役
	その他, 研究交流会, 懇親会には 複数の教員も参加	

・参加者(TU Delft側)

氏名	研究機関及び職名	備考
Roel Zwart	デルフト工科大学船舶海洋工学科 学生	学生代表
	その他学生33名	
J. Pruyn	デルフト工科大学船舶海洋工学科 助教授	引率教員
P. de Jong	デルフト工科大学船舶海洋工学科 助教授	引率教員

・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・研究交流会



TU Delft助教授ら
による講演

・研究交流会



両学生による
研究発表

・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・昼食会

荒田記念館にて昼食会



学生たちもかなり打ち解けた

・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・施設案内

大阪大学生による実験施設案内

長水槽やアメーバ水槽を見学

イカロボットの実演

案内は主に幹事学生が行い、
その他学生や教員にも助力いただいた

・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・スポーツ交流

雨天であったが、TU Delftの学生の強い希望により
グラウンドにてサッカーを行った



TU Delftのサッカーチーム

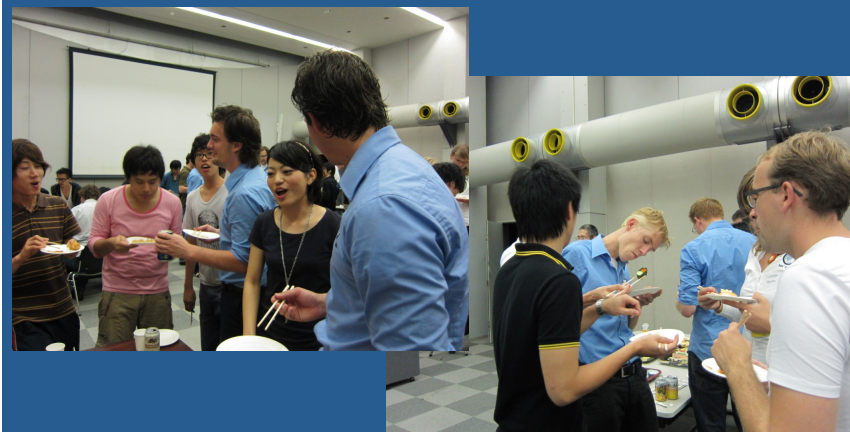
・日程

2011年 7月19日

9:30～12:45	研究交流会
13:00～14:30	昼食会
14:30～15:30	施設案内
15:30～17:30	スポーツ交流
18:00～20:00	懇親会

・懇親会

日本食の紹介も兼ねて一緒に食事をし、親睦を深めた



・懇親会



TU Delft学生スタッフと
大阪大学学生幹事



TU Delftと大阪大学の学生

・成果

- 研究交流会を通じて、幅広い視点を持つことができ、モチベーションが向上した
- TU Delftの学生と共に交流会を企画することで、コミュニケーション能力・企画力を養った
- 研究交流会や懇親会における進行等、できる限り学生自身で行ったため、非常に良い経験ができ、英語への学習意欲も飛躍的に高まった



国際交流のタイトル

10th Korea/Japan Joint Seminar on
Geotechnical Engineering
(地盤工学に関する日韓共同セミナー)

開催場所の変遷

第1回	2002	大阪大学	第2回	2003	中央大学校
第3回	2004	大阪大学	第4回	2005	中央大学校
第5回	2006	大阪大学	第6回	2007	済州大学
第7回	2008	立命館大学			
第8回	2009	Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources			
第9回	2010	大阪大学	第10回	2011	韓国海洋大学

* 期間

平成23年11月4日～11月6日

* 参加機関

韓国側: 韓国海洋大学/中央大学校

日本側: 大阪大学(地盤工学領域)/岐阜大学

教員、研究員、大学院生(博士、修士)、学部4年 民間技術者(地盤の関係者)

■国際交流の目的

大学院生の英語論文の発表練習および交流の場。

■実施内容 I

11月4日: Technical Tour and Welcome party



釜山港見学の様子



ウェルカムパーティーの様子

■実施内容 II

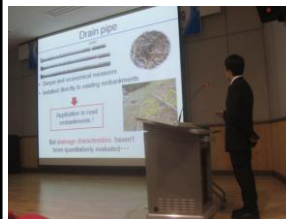
11月5日: 10th Korea/Japan Joint Seminar and Banquet

* 投稿論文数

日本側: 7編(学生6編)

韓国側: 11編(学生10編)

聴講者は日韓双方で約50名

*博士課程と修士1年が発表主体
M1は卒論を英語論文にして発表

発表の様子



晚餐会の様子

国際交流の概要



■日時: 2011年9月16日～23日

■参加者: 鈴木毅准教授, 吉住優子(特任研究員),
Abdul Radja (D3), 向阪真理子(M2),
山本葵(B4), 山内清史(M1), 藤井郁(M1)

■行き先: インドネシア マカッサル市

■交流先: ハサヌディン大学
建築学科の教員、学生



国際交流の目的



■インドネシアの習慣・生活文化の特有な建築空間に直接触れ、学ぶ

■インドネシアの公共空間での共同利用の実態の調査をする

■学生間の国際的なネットワークの構築する

スケジュール



9/16 (金) : 関空発 → インドネシア着

9/17 (土) : ハサヌディン大学/見学・交流

9/18 (日) : Lae-Lae島/見学

9/19 (月) : Lae-Lae島/見学

9/20 (火) : Barrang Lompo島/見学

9/21 (水) : マカッサル市内/見学(井戸・市場etc.)

9/22 (木) : バリ観光

9/23 (金) : インドネシア発 → 関空着

ハサヌディン大学/交流



建築学科教員との交流・レクチャー

ハサヌディン大学/交流



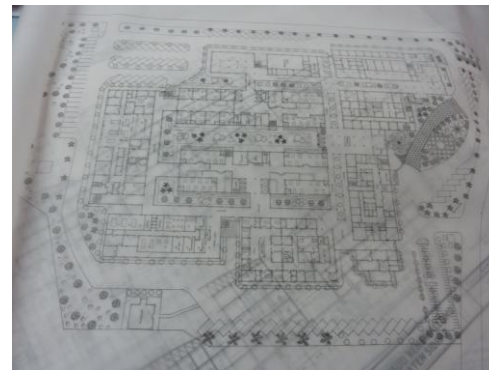
建築学科製図室見学

ハサヌディン大学/交流



建築学科の学生による設計課題プレゼンテーション

ハサヌディン大学/交流



建築学科の学生による設計課題プレゼンテーション

ハサヌディン大学/交流



大学内施設見学/海洋系実験室

ハサヌディン大学/交流



大学内施設見学/お祈りのための広場

ハサヌディン大学/交流



大学内施設見学/食堂

ハサヌディン大学/交流



大学内施設見学/無線LAN利用可のパブリックスペース

Lae-Lae島/見学



縁台「Bale-Bale」による外部での島民の暮らし観察

Lae-Lae島/見学



縁台「Bale-Bale」による外部での島民の暮らし観察

Lae-Lae島/見学



島民へのヒアリング

Lae-Lae島/見学



島民へのヒアリング

Lae-Lae島/見学



住宅の見学

Lae-Lae島/見学



住宅の見学

Lae-Lae島/見学



住宅の見学

Lae-Lae島/見学



住宅の見学

Lae-Lae島/見学



住宅の見学

Lae-Lae島/見学



島民との交流

他地域/見学



マカッサル市内・共用井戸の見学

他地域/見学



マカッサル市内・共用井戸の見学

他地域/見学



マカッサル市内・市場の見学

他地域/見学



マカッサル市内・市場の見学

国際交流を終えて

- 通常の学生生活では体験できなかった、インドネシア固有の習慣・生活文化に直接触れる経験ができた。
- ハサヌディン大学の学生と一時的な交流ではなく、帰国後も情報交換ができるネットワークを構築できた。
- インドネシアの学生だけではなく、子供から大人まで様々な世代の現地の人々と交流ができ、言葉が通じなくとも、人と交流することの楽しさを実感できた。
- Lae-Lae島での見学においては、住居と外部空間の境界が曖昧で、島民が一体的に生活の場として利用しているということが分かり、空間の利用の仕方として、学ぶべきところがあった。

大阪大学・香港理工大学・ソウル市立大学による
研究交流会（第6回アジア建築技術・構造工
学協定に基づく国際ワークショップ）

ACBC2011参加報告

発表者：澤田昌江、本多順子
地球総合工学専攻
建築工学部門 前期課程1年

Research exchange meeting among Osaka University, Hong Kong
Polytechnic University and University of Seoul (6th International
Workshop on Asian Coalition for Building Science and Construction
Engineering

ACBC 2011

PRESENTER: MASAE SAWADA, YORIKO HONDA
DIVISION OF GLOBAL ARCHITECTURE, DEPARTMENT OF
ARCHITECTURAL ENGINEERING, MASTER COURSE

概要

〈訪問先〉

香港理工大学

今回は第6回で、ソウル、大阪、香港で持ち回りである

〈参加者〉

教員：9名、学生：42名（ソウル22名、大阪4名、香港16名）

〈期間〉

2011.8.1～8.3

〈参加大学〉

大阪大学、香港理工大学、ソウル市立大学

〈参加者〉

教職員：甲谷寿史、岸本一蔵先生（現 近畿大学）

学生：澤田昌江、本多順子、李リンルイ、西正敏

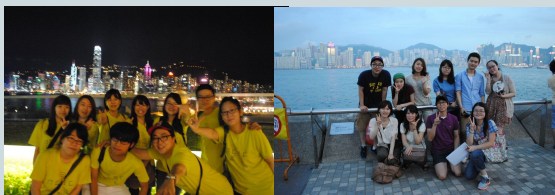
以上6名

Outline

- Place: The Hong Kong Polytechnic University
- Period: 1 August, 2011~3 August, 2011
- University: Osaka University
The University of Seoul
The Hong Kong Polytechnic University
- Attendance: Professor) Hisashi Kotani, Ichizo Kishimoto
Students) Masae Sawada, Yoriko Honda
Li linrui, Masatoshi Nishi

目的

- 英語でのプレゼン、コミュニケーション力の向上
- 建築を学ぶ中国、韓国の学生との国際交流
- 各国間の建築、社会制度に関する現状理科会、技術交換
- 異文化の相互理解



Purpose

- Improvements in English
- Communication with Chinese and Korean students
- Information exchange
- Culture understanding



ワークショップの概要

1. 事前準備
2. 研究交流
3. ワークショップ
4. 成果発表

事前にテーマの提示があり、そこからグループ編成を行う。
参加学生は資料収集を行い、3か国の同じグループのメンバーとe-mailなどで情報交換、意見交換を行う。

Urban Revitalization

Repair Construction

Functional Re-planning

Historical Conservation

3つのテーマを基にグループに分かれ、それぞれのテーマに対して情報収集を行い、各大学のグループのメンバーとemailなどで事前準備を行い、開催期間にディスカッションをすることでより理解を深め、最後にプレゼンテーションを行い発表した

Workshop

1. Preparation
2. Research Exchange
3. Workshop
4. Presentation

Divided into three groups in discussing one topic. Information collection for preparation. Information and ideologies exchanges with students from other countries by e-mail.

Urban Revitalization

Repair Construction

Functional Re-planning

Historical Conservation

Each group concentrated in one topic. Group members collected information about each topic separately and exchange ideologies by e-mail. During the working shop, we had opportunity to have further discussion and argument to complete our final Presentation.

ワークショップの概要

1. 事前準備
2. ワークショップ
3. 成果発表

3日間開催され、事前準備で用意していた資料をベースに更なる討議を行う。そこから成果発表のために、プレゼンテーション資料を作成。また、講演会や実際の建築現場への見学会もある。



Workshop

1. Preparation
2. Workshop
3. Presentation

It was a three-day workshop when we got chance to visit some construction locations, by which we gained further comprehension of our topics, which helped us to complete our final presentation.



ワークショップの概要

1. 事前準備
2. ワークショップ
3. 成果発表
4. 懇親会

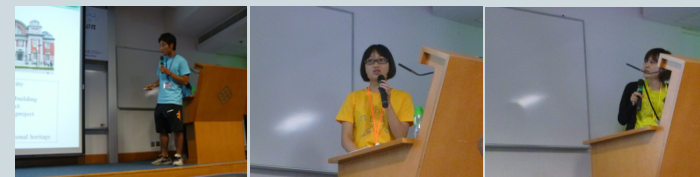
最終日にそれぞれのグループごとに成果のプレゼンテーションを、3か国の大学で分担して英語で行う。



Workshop

1. Preparation
2. Workshop
3. Presentation
4. Farewell Party

At the end of the workshop, what we had seen, what we had learnt and what we had been thinking was revealed in three wonderful presentations.



ワークショップの概要

1. 事前準備
2. ワークショップ
3. 成果発表
4. 懇親会

3日間のワークショップも終わり、かなり打ち解けた状態での懇親会。



ワークショップの概要

1. Preparation
2. Workshop
3. Presentation
4. Farewell Party

We had a great time !
But it was sad to say goodbye to dear friends.



スケジュール

(事前準備：7月上旬～開催日まで)

1日目：【レクチャーおよび施設見学】8/1

(レクチャー)

- Dr.H.Q.FANによる“Urban Revitalization”のレクチャー
(見学場所)

- 香港大学新キャンパスプロジェクト

2日目：【施設見学および発表準備】

(見学場所)

- Hysan Place
(発表準備)

- 学生は担当テーマごとに、事前準備において用意した資料をベースに更なる討議を行う。
更に、それらを会の最終日に発表するためのプレゼンテーションを作成する。

3日目：【発表準備、発表および閉会式】

- 各グループは各々の成果を全員の前で発表する。発表は、担当箇所をきめて、ほぼ全ての学生が行う(使用言語はもちろん英語)。発表会の後にはFarewell Buffet Partyを行う。

Schedule

(Preparation : July ~ Workshop)

Day 1 : Lecture and Construction location visiting (lecture)

- “Urban Revitalization” by Dr.H.Q.FAN
(Construction location visiting)
- Hong Kong University new campus project

Day 2 : Construction location visiting and presentation preparation (Construction location visiting)

- Hysan Place
(Presentation preparation)
- Each group prepared its presentation based on their collected information, agreements through discussion and argument.

Day 3 : Presentation and close ceremony

- Each group gave a wonderful presentation, after that we had to say goodbye to our friends at the farewell party.

感想

- ACBCに参加した一番の収穫は、香港と韓国の学生と接することができたことです。彼らは、大変パワフルで明るく、積極的で、自分の考えをきちんと持っており、とても良い刺激になりました。また、最初は英語に対する劣等感もあり、なかなか自分から話すことができませんでしたが、つたない英語でも熱心に耳を傾けてくれるので、少しずつ、英語での会話が楽しく感じるようになりました。一回では通じなかったことも、違う単語に言い換えたり、簡単な表現で言い直すなどして、伝わった時は本当に嬉しく思いました。実際に海外の学生と交流を行い、それぞれの文化について学ぶことができたことは貴重な経験となりました。



建築・都市環境工学領域 M1 澤田昌江

<Impression>

- The achievement of participation in ACBC workshop was making communicate with Hong Kong and Korean students. They are full of power, and represent their idea actively. It was stimulating for me. And they listened attentively to my broken English, so it makes me feel fun for speaking English though I am not good with English. I was happy when I can get through to them. The experience of ACBC workshop which enables me to learn about foreign culture through interaction with foreign students was very valuable.



Built Environment Labor., M1 Masae Sawada

感想

- 初めは全く英語でコミュニケーションをとることができず、言いたいことが伝わりませんでした。しかし話していくにつれて完璧な英語が話せなくてもコミュニケーションが取れると気づき、そこからはだんだんいいのですが何とか話ができるようになりました。また話していくうちに、中国、韓国の学生は日本の文化にとても詳しいことを知り、自分の無知を恥ずかしく感じました。いままで英語だけでコミュニケーションをする機会があまりなかったの、今回このような機会を与えて頂けたことを大変感謝しています。国際社会での英語の重要性、異文化を知る楽しさ、アジアの同世代の学生の積極的な姿勢に触れることができ、大変有意義で刺激的なワークショップになりました。



建築・都市環境工学領域 M1 本多順子

<Impression>

- At first, I couldn't communicate with foreign students in English. But I found that I can communicate with them regardless even I cannot speak English accurately. After that, I could communicate with them and enjoyed talking with them. I also found that they knew about Japanese culture very well and was ashamed of my blindness. I appreciate giving this opportunity. I can find that English is important in the global and it is interesting to understand the different culture. This workshop was very meaningful and exciting for me.



Built Environment Labor., M1 Yoriko Honda

感想

- 「Urban Revitalization」っていう話は、この前に全然わからなかったが、ACBCワークショップのため、このテーマが分かるようになる機会ができてきた。ただし、聞くと見るだけではなく、自分の考えを入れ、自分の言葉で語ることになった。チームメンバーと検討したり、論じたりするときに、彼らの知識や能力に深い印象をつけられ、自分にはとても有益だった。このワークショップ通して自分の視野を広め、自身の不足も十分自覚していた。



建築・都市環境工学領域 M1 Li Linrui

<Impression>



- This was my second time for ACBC. If you ask me what the good of ACBC is, I probably would tell you that in all my fantastic memories of ACBC, there are three key words, communication, cooperation and friendship.
- If you think of it as, okay maybe some kind of, college students from three different countries gather together do some little easy chat and hanging out, you are just basically generally totally wrong. We had been working together on a theme which was Urban Revitalization. Before the ACBC none of us were familiar with this topic, fortunately we got a chance to get to know it, not just to listen or to view but also to think and to speak with our own words. I was very much impressed by the intelligence and learning of my coworkers, to discuss or even argue with them had truly benefited me a lot. I had widened my horizon and became aware that I still have a lot to improve and how much better I need to be.
- I also appreciate the ACBC for offering us the magnificent opportunity to let us bring a brain storm.

Built Environment Labor., M1 Linrui Li

感想

- 今回ACBCに参加して得られた収穫は大きく3つあります。
- まず一つ目は、香港に約1週間滞在して異国の文化や習慣に触れたことです。食文化や住環境の違いはもちろんのこと交通事情やお店での接客など日常生活のいたるところで日本では考えられないようなことを体験することができました。また特に中国人の価値観・人生観として「中国では人口が多い分一人ひとりの命の価値は低い」という認識を持っていると知った時はとても驚かされ一番印象に残っています。
- 次に二つ目は、日本語が全く通じない中で各国の学生と英語でのディスカッションを通し自分の考えを伝えるという経験をできたことです。各国で同じテーマに対してアプローチも違えば持っている知識も違うので、なかなか議論が噛み合わずに高次元の話合いに至ることが困難でした。そのなかでポスターランゲージや絵や写真といったあらゆる手を使って自分の意見を伝える努力をしました。この経験から分かったのは、英語のレベルよりも相手を分かろうとしたり伝えようとする気持ちの強さのほうが大事なことです。この経験は同時に自分の自信にもつながったので今後も似たような機会があってももっとうまくできると思います。
- そして最後に、このワークショップを通して韓国と香港の多くの友達を作ることができたことです。香港に滞在中はワークショップ以外の時間では観光したり食事を共にしたりする中で友情を深めることができました。この友達たちは今でもインターネットを利用して連絡を取り合っていて今でもお互いの国や文化について学ぶことができます。この関係はこれからもずっと大切にしていきたいと思います。



建築・都市環境工学領域 B4 西正敏

<Impression>



- I get three important things from ACBC.
- First of all, I came into contact with a lot of different culture and customs while I stayed in Hong-Kong for one week. There are many different and unbelievable thing in daily life. For example, that is not only that food and living environment but also transportation condition or attitude of staff in a restaurant. Especially, I got surprised when I heard the Chinese life philosophy which is 'Each people' s value of life is not important in China because there are so many people' That is the most impressing thing in HK.
- Second, I had much time which I discussed with Korean and HK student and I could convey my opinion in English. It is so difficult that we three country student couldn't share common vision about same theme at first because an approach or knowledge about same thing in each country. So I tried to tell my thought by using body-language or pictures or illustration and in the end I could make our group' s opinion. I found from this experience that the most important thing is not English skills but attitude to try to understand other people.
- And finally, I made many Korean and HK friends through this workshop. During staying in HK, we went to sightseeing or dinner and we got more intimate. After the workshop we get in touch with these friends via Internet. I think I want to hold this relationship.

Built Environment Labor., B4 Masatoshi Nishi

[平成23年度地球総合工学専攻国際研究交流支援]
貴重で有意義な機会を与えて頂き、ありがとうございました。



Thank you for giving prime and meaningful opportunity.

